

☆年間第30主日(10月29日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (出エジプト記 22章 20-26節)

主は言われる。寄留者を虐待したり、圧迫したりしてはならない。あなたたちはエジプトの国で寄留者であったからである。寡婦や孤児はすべて苦しめてはならない。もし、あなたが彼を苦しめ、彼がわたしに向かって叫ぶ場合は、わたしは必ずその叫びを聞く。そして、わたしの怒りは燃え上がり、あなたたちを剣で殺す。あなたたちの妻は寡婦となり、子供らは、孤児となる。もし、あなたがわたしの民、あなたと共にいる貧しい者に金を貸す場合は、彼に対して高利貸しのようにしてはならない。彼から利子を取ってはならない。もし、隣人の上着を質にとる場合には、日没までに返さねばならない。なぜなら、それは彼の唯一の衣服、肌を覆う着物だからである。彼は何にくるまって寝ることができるだろうか。もし、彼がわたしに向かって叫ぶならば、わたしは聞く。わたしは憐れみ深いからである。

第二朗読 (使徒パウロのテサロニケの教会への手紙 I 1章 5c-10節)

皆さん、わたしたちがあなたがたのところ、どのようにあなたがたのために働いたかは、御承知のとおりです。そして、あなたがたはひどい苦しみの中で、聖霊による喜びをもって御言葉を受け入れ、わたしたちに倣う者、そして主に倣う者となり、マケドニア州とアカイア州にいるすべての信者の模範となるに至ったのです。主の言葉があなたがたのところから出て、マケドニア州やアカイア州に響き渡ったばかりでなく、神に対するあなたがたの信仰が至るところで伝えられているので、何も付け加えて言う必要はないほどです。彼ら自身がわたしたちについて言い広めているからです。すなわち、わたしたちがあなたがたのところ、どのように迎えられたか、また、あなたがたがどのように偶像から離れて神に立ち帰り、生けるまことの神に仕えるようになったか、更にまた、どのように御子が天から来られるのを待ち望むようになったかを。この御子こそ、神が死者の中から復活させた方で、来るべき怒りからわたしたちを救ってくださるイエスです。

福音朗読 (マタイによる福音書 22章 34-40節)

そのとき、ファリサイ派の人々は、イエスがサドカイ派の人々を言い込められたと聞いて、一緒に集まった。そのうちの一人、律法の専門家が、イエスを試そうとして尋ねた。「先生、律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか。」

イエスは言われた。「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。」

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

過ごしやすい日々が続いています。木々も紅葉をはじめ、野菜果物なども少し安くなってきたのでしょうか。値上がりが激しいので生活が苦しいですね。しかしもっと貧しい、苦しい人々が世界には大勢いるのです。祈りとともに、金銭的にも応援しましょう。愛を育む人々に神はその房にゆり入れ押し入れして応えてくださいます。この神を信じるのが大切なのです。

今日はサレジオ秋のバザーの日です。地域の方々と触れ合う日でもあります。暖かな心で過ごすようにいたしましょう。今日のみ言葉はとても大事なことを教えてくれます。神さまが何を望んでおられるかを伝えてくれています。慌ただしい日ですが、心に留め置きましょう。そして少しでも今日一日のうちでその言葉を実行してみましょう。

第一朗読 (出エジプト記 22章 20-26節)

キリスト教の社会福祉の精神の原点がここに 있습니다。寡婦、孤児、寄留者に対する心遣いを決して忘れるなと主は言われるのです。それに背く行いに対し主なる神は「その叫びを聞き、怒りは燃え上がる」とまで言われます。現代世界で今最も困難な難民の問題があります。キリスト教国はそれぞれ苦勞しながらも、この聖書の言葉に少し

でも従おうとしていますが、日本の国は法的に厳しい姿勢を貫いています。貧しく弱い立場の人に厳しく、権力におもねり、寄る辺ない難民の方々にどうして厳しいのでしょうか。自分を守るということは、他の人を懲らしめることではないはずで、他の人を守ることで、私も守られるのです。

第二朗読（使徒パウロのテサロニケの教会への手紙 | 1 章 5c-10 節）

使徒パウロはテサロニケの信徒の皆さんが偶像崇拝から離れ、イエスを救い主として信じたこと、またみ言葉に従って模範となる生活を営んでいることを神に感謝し、喜んでいると記しています。多くの困難に遭遇してきた使徒パウロにとってテサロニケの教会は多くの慰めを与えてくれたようです。イエスを救い主と信じることは単なる個人の信仰にとどまらず、より多くの人々、共同体に喜びを与えるものであることをパウロは示してくれています。

福音朗読（マタイによる福音書 22 章 34-40 節）

イエスの言動にことごとく反対してきたファリサイ派の人々が何か良いことをしたと言え、今日のイエスの言葉を引き出したことでしょうか。申命記にある「聞け、イスラエルよ！」に続く、主の命令です。イエスにとって旧約の律法はいわば父である神の望みを表しているものです。主なる唯一の神を心を尽くし、力を尽くし、精神を尽くして愛するとは、私の隣人を愛すること、また、出エジプト記にある「寡婦や孤児、そして寄留者」に対し心遣いを表すことを指しています。神は私一人の神ではなく私たちの神なのです。



青少年委員会こども会ゲームの一コマ「天の国は網の中の・・・」10月14日

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光